

2/20
(水)

地元の食材を食べよう
地産地消給食で地元の豚肉など提供

茨城町では、地元産の農産物などを子どもたちに食べてもらうことを目的として、毎月地産地消給食を実施しています。この日は、茨城県養豚協会から提供された豚肉を使ったヒレカツが各小中学校の給食に並びました。

上野合小学校に提供された豚肉は、町内の養豚農家、和家貴之さん（鳥羽田）が丹精込めて育てたものです。和家さんは生産者を代表して上野合小学校を訪れ、豚肉の提供にあたり「食べるということは、命をもらって命をつないでいること。食べる前にいただきます。ごちそうさまを守ってください。」と食べ物に感謝する気持ちを持つと児童たちに呼びかけました。

この日の給食は、おかわりを目指すジャンケン大会が開かれるほど児童たちに好評でした。



2/24
(日)

かるたを通じた交流 ふるさとかるた取り大会

茨城町の歴史や文化、自然などを題材にした「茨城町ふるさとかるた」。このかるた遊びを通して町の歴史や文化を知り、同時に子ども会同士の交流に繋がることを目的として、町子ども会育成連合会主催の「第2回茨城町子ども会ふるさとかるた取り大会」が町中央公民館大ホールにおいて開催されました。

この大会には、小学校低学年の18チームと高学年の20チームの合計203人が参加し、かるたの腕前を競いました。各小学校の校長先生や教頭先生も応援にかけつけ、「かるたを通して故郷の良さを知り、故郷を愛する大人になってください。」と、真剣なまなざしでかるたを見つめる児童たちにエールを送りました。

大会の結果は、低学年の部では沼前学区のディズニーズが、高学年の部では川根学区のカルタファイターズがそれぞれ優勝しました。



2/27
(水)

感謝・希望・自立・未来・歩
3中学校合同で「立志の集い」

昔の元服にちなみ、大人への第一歩を祝い、自分の将来について考える「立志の集い」が梅香中学校体育館で開催され、町内3中学校の中学二年生295名が参加しました。

この集いは、3校の生徒代表で構成する実行委員会が運営します。実行委員長の水瀬まいさん（梅香中学校）は、「立志のテーマは感謝、希望、自立、未来、歩。これらすべてを心に持って、一歩ずつ確かな足取りで歩いていこう。」と挨拶しました。

また、各校の代表者による「志」についての発表がありました。明光中学校の瀬谷南緒さんは「14歳の決意」、桜丘中学校の山口湧人さんは「未来に向かって」、梅香中学校の望月優里さんは「私の決意」という題材で、それぞれの夢や、今までお世話になった親や周囲の人に対する感謝の気持ちを発表しました。



2/11
(月)

行灯の光を希望にかえて
「きらり子どもあんどん」

昨年2月、震災からの復興事業で行われた町商工会青年部が主催する「きらり子どもあんどん」。今年も2月11日（月）、町総合運動公園にて行灯の光が灯されました。

展示された行灯には、町内の小学生が描いた、「がんばろう茨城」や「前進」「希望にむかって」などといったコメントや、カラフルなイラストが描かれており、訪れた親子連れなどを楽ませました。

また、グラウンドに並べられた行灯は、高所から見ると希望の「希」の字が浮かび上がり、2月の澄んだ夜空の下、幻想的な光を灯していました。



2/7
(木)

JA 水戸茨城町いちご生産部会が茨城町産のいちごをPR！

小林町長とJA水戸の八木岡組合長、JA水戸茨城町いちご生産部会の江橋部会長ら関係者13人が県庁を訪れ、橋本県知事を表敬訪問し、旬を迎えた茨城町産のいちごをPRしました。

同部会で栽培するいちごの主力品種は「とちおとめ」で、食味と鮮度持続を目的に甘味料であるステビアを栽培に利用。部会員全員がエコファーマーの認定を受けているのが特徴で、水戸や東京、長野などの市場で高い評価を受けています。

小林町長は、「今年は寒波の影響で例年より生育が遅れ出荷量が少ないが、品質は良くとても甘いいちごができました。」とPRしました。

ステビア栽培のいちごは、果皮を固くする効果があり、収穫後の日持ちがよいのが特徴。同部会では8年前から栽培に取り組んでいます。



2/19
(火)

野菜で生け花
梅香中学校で「農の生け花教室」

地元産の農作物や、農具・民具を活用し、生け花という日本の伝統芸能について理解を深めるとともに、身近にある食に対する感謝の気持ちをもてる態度を養うことを目的として、梅香中学校1年生76人が参加して「農の生け花教室」が同中学校で行われました。

生徒たちは、講師の「農の生け花愛好会」会員の手助けのもと、大根やニンジン、菜の花など色とりどりの野菜を思い思いに籠や木桶に飾り付け、季節や収穫を表現し、食べ物芸術に変わる面白さを体験しました。

この教室に使用した野菜などは、ほとんどが愛好会会員が持ち寄ったもの。会員の一人は「冬は用意できる野菜の種類も少ないが、生徒たちに楽しんでもらえてよかった。」と話してくれました。

